

相談部会 令和4年度 部会状況把握表				
活動理念	誰もが自分らしく暮らせる街をつくる。			
活動目標	事例や課題検討を通じて相談員のアセスメント力や相談支援スキルを向上させる。サービス提供事業所と顔の見える関係をつくる。 <b>相談部会を通し社会資源の現状や市内・圏域の課題を洗い出す。</b>			
①	取り組み計画(PLAN)			
	事例や課題検討を通じて相談員のアセスメント力や相談支援スキルを向上させる。			
	実行実績(DO)	評価(CHECK)		
第1 四半期	4月			
	5月			
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会長と副部会長の選任</li> <li>・障がい福祉課より(計画案・計画書・モニタリング報告書の取扱いについて等)</li> <li>・令和4年度計画について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会長と副部会長を選任することができた。</li> <li>・計画案・計画書・モニタリング報告書の取扱いについて確認することができた。</li> <li>・令和4年度計画について、開催頻度・実施内容等確認することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例や課題検討にあげるテーマについて、支援に苦慮したケースをあげていく。</li> <li>・相談支援専門員等による模擬課題の事例検討会を実施し、ファシリテーター力を培う。</li> </ul>
第2 四半期	7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討会のあり方について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者は、部会1週間前までにフェースシートにより、障がい福祉課へメールにて提出。発表者・ファシリテーターを決め、板書の順番は、障がい者相談支援センターより決定する等の事例検討会の基盤を確認できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談部会開催1週間前のフェースシート提出を厳守する。</li> <li>・フェースシート作成スキルの向上に努める。</li> </ul>
	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Ayamu説明会</li> <li>・インフォーマル資源を用いたの相談支援実践報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CASIO様より伊賀市地域資源データベース(Ayamuシステム)の説明を受けた。</li> <li>・模擬事例を使ったAyamuシステムの体験ができた。</li> <li>・インフォーマル資源を用いた実践例の報告会ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Ayamuシステムの利用を進める。</li> <li>・インフォーマル資源も含めた相談支援を検討する。</li> </ul>
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『特殊詐欺について(特殊詐欺再現DVD等視聴含む)』講演会実施</li> <li>講師:伊賀警察署生活安全課 三上耕太郎氏</li> <li>・特殊詐欺による事例検討会</li> <li>『特殊詐欺により生活が困窮しているが、本人はそのことに気づかない。』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演と事例検討会により、高齢者の特殊詐欺事件の現状を把握することができた。</li> <li>・生活安全課より、自動録音警告機の貸し出しについて情報を得ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害を受けたと自覚し被害届を提出しないと警察は介入できない。本人の被害者意識が必要となる。</li> <li>・利用者への特殊詐欺被害を防ぐために、利用者・事業所等への啓発を行う。</li> </ul>
上半期 総評	達成率	100%	地域包括支援センターと連携し、Ayamuシステムの説明や伊賀警察署より特殊詐欺による講義を受け、知識を深めることができた。	

第3 四半 期	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援課より「住民税均等割非課税世帯等の対象者に向けて「電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金(5万円/1世帯)のご案内」を10/24(月)付送付予定。</li> <li>事例検討会(報告会)『母の入院で障害福祉サービスを知った』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他課の情報を共有し、部会員に対象者への申請支援等の協力を依頼できた。</li> <li>事例報告により対象者を知り、イメージ構成することを基本に、心配事等やあらゆる課題の対応方法についてホワイトボードに書き出し、共有ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討会の運営方法を学ぶ。</li> <li>対象者の基本情報の洗い出しや、多様な意見を求める必要がある。</li> </ul>
	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労部会事業所連絡会WGより伊賀マルシェ開催の案内について</li> <li>事業所別サービス利用者数等集計結果中間報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所別サービス利用者数一覧により高齢の介護者が倒れたときの支援方法が少ないことや、利用者は20~30代男性が多く、介護移行対象の60代男性も多い。介護と障がいの連携が必要と確認できた。</li> <li>社会資源の現状や市内の課題を共有できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護移行時に高齢者支援の担当部署との連携を強化する必要がある。</li> <li>市内居宅ヘルパー不足の改善方法を検討する(人材育成と待遇面に課題)あり。</li> </ul>
	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討会『心のより所がなくなった利用者と厳しい父親との生活』</li> <li>現任研修兼ねるインターバル研修として部会に参加(つむぎ藤林氏、さぼ倉阪氏、ふつくりあ小崎氏、ささゆり相澤氏)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人で抱える情報量は少なく、他者の見立ての再検討に成果があることを実感できた。</li> <li>相談部会への参加を現任研修とした。</li> <li>現任研修を兼ねたため、事業所の立場での意見や感想を直接聞くことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々のニーズに応じた支援体制が構築できるよう、経過観察に留まらない支援の検討が必要。</li> <li>ケースを可視化することで新たな気づきを得る必要がある。</li> <li>対象ケースがある場合、関係機関との連携を深め関係者の協議の場を設定していく。</li> </ul>
第4 四半 期	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討会『母子の信頼関係が盤石！だが生活基盤が崩壊寸前！』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子共にサービス利用者であり、別々の相談支援専門員がいるが、個々の支援を考えるのではなく、関係者間での情報を共有し、家族全体の支援を考えることが課題解決に繋がると確認できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス担当者会議(母子合わせた)を開く必要がある。</li> <li>事業所間の連携強化を行う。</li> </ul>
	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討会『支援を拒みがちの家庭に介入できた！そのきっかけは…』</li> <li>各事業所別利用者数等集計結果、相談部会活動内容の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援を拒否していた家庭にコロナをきっかけに、母への介護サービス利用や本人へのヘルパー支援の提供に取り組めた方法について情報共有ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援専門員と介CMとの連携を深め、支援を継続する。</li> </ul>
	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討会</li> <li>総括</li> </ul>		
下半 期 総 評	100%		<p>コロナ禍であるが、Zoom開催することなく部会を開催できた。年度当初に、年間スケジュールを決めたことで、毎月開催が可能となった。事例検討会を通し、好事例の共有や課題の抽出を行った。相談員らが実際に集うことで、Zoom開催時より活発に意見を交わすことができ、日々の些細な悩みも共有でき、日常業務にすぐに活かされた。</p> <p>関係者間の情報共有の重要性を確認し、相談支援専門員、事業所、市との連携体制の強化、構築していくことを確認できた。</p> <p>事業所別サービス利用者数等集計を実施することで、年齢、性別毎のサービス利用率や、相談支援専門員のニーズから、社会資源不足や課題を抽出できた。</p>	

くらし部会 【ヘルパー人材育成WG】				
令和4年度 部会WG状況把握表				
活動理念	各関係機関の連携により、居宅介護等サービスの質・量の向上の取り組みを行い、圏域における地域福祉サービスの安定と充実を目的とする。			
活動目標	事業所間の相互援助体制の構築			
①	取り組み計画(PLAN)			
	・新システム「さきがけシステム」の土台をもとにした課題の抽出			
	実行実績(DO)	評価(CHECK)	改善(ACTION)	
第1 四半期	4月			
	5月			
	6月	6/14 第1回WG ・WG長、副WG長の選任 ・令和4年度活動計画について 目標設定、方向性の協議	・WG長、副WG長の選任ができた。 ・活動の実施計画が出来た。	・さきがけシステムを継続的に協議する。
第2 四半期	7月			
	8月			
	9月	9/13 第2回WG ・これまでの取り組み・経緯を共有・再確認し、メンバーから出た課題を整理した上で、次回WGにつなげることで合意。	・さきがけシステムの課題抽出ができた。	・課題に対して、次回会議向け提案ができた。
総評 上半期	達成率 50%	・メンバー参加が少なかったため、共通での認識及び協議が不足した。		
第3 四半期	10月			
	11月	11/1 第3回WG ・さきがけシステム構築にあたり、課題を整理し、小規模で進めるか、伊賀・名張の広域で進めるか検討。協議の結果、小規模で新規サービス利用者を複数契約によるモデルケースとして試験的に進めていくことに決定。	・さきがけシステムは当面、小規模な参加単位で構築する方向で協議を行った。	・さきがけシステムをデザイン化する上で方向性が決まった。
	12月			
第4 四半期	1月	1/24 第4回WG ・さきがけシステムのデザイン化を進めるための協議 ・次年度も継続してさきがけシステムの構築を行う。	・さきがけシステムのイメージの共有を行い、構築にあたっての課題を協議した。	・さきがけシステムの実行化に対する根拠とするべく、複数契約を行っている利用者様の現状把握のアンケートを行う事が決まった。(R5.1.30全居宅介護事業所へメール)
	2月			
	3月			
総評 下半期	達成率 80%	・少ない協議の中でも、さきがけシステムのイメージ作りが出来、具現化の方向性が見出せた。		
総年 評度	達成率 80%	・今年度での協議予定はある程度行うことが出来、次年度へ継続協議が出来る態勢となった。		

くらし部会 【ヘルパー人材育成WG】				
令和4年度 部会WG状況把握表				
活動理念	各関係機関の連携により、居宅介護等サービスの質・量の向上の取り組みを行い、圏域における地域福祉サービスの安定と充実を目的とする。			
活動目標	コンプライアンスを含めたサービス水準の向上			
取り組み計画 (PLAN)				
②	・居宅介護スキルアップ研修		・コンプライアンス研修	
	実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)	
第1 四半期	4月			
	5月			
	6月	6/14 第1回WG ・昨年度の実施計画に基づいて、年度内に1回開催できるよう進めていく。	・コロナ下において今年度内1回開催が難しくなった。	・開催できる時期が来れば開催できるように準備を進める。
第2 四半期	7月			
	8月			
	9月	9/13 第2回WG ・圏域の全事業所へ3つのテーマでアンケートを実施し、年度内に開催できなくても、次年度に向けてアンケート結果の集約、テーマの設定を行う。	・スキルアップ研修の為のアンケート回収が出来、次年度に開催できる基礎ができた。	・研修のテーマ別振り分けを行った。
総評 上半期	達成率 30%	・コロナ禍で参加メンバーが少なかった為、共通での認識及び討論が不足した。		
第3 四半期	10月			
	11月	11/1 第3回WG ・アンケート結果を分析。コアメンバーが幾つか課題を選び、メンバーに確認してもらったこととした。 ・今回のアンケート結果は全ヘルパー事業所で共有する。(R5.1.30メールにより全居宅介護事業所へ共有)	・コアメンバーでアンケート結果について討議し、次年度におけるスキルアップ研修の課題ができた。	・次年度へ研修を持ち越したが、早い時期での開催が見込めるようになった。
	12月			
第4 四半期	1月	1/24 第4回WG ・アンケート結果より、コミュニケーションを課題とした研修を行う事を決めた。 ・次年度研修についての協議	・メンバーで協議を行い、スキルアップ研修の課題と研修方法の整理ができた。	・今年度内での開催が難しい為、次年度の5月頃に開催する方向で進めるようになった。
	2月			
	3月			
総評 下半期	達成率 80%	・上半期同様、討論は不足がちではあったが、研修が行えるような態勢作りはできた。		
総評 年度	達成率 80%	・概ね今年度における取り組みは評価できる内容となり、研修会開催にも目途がたった。		

暮らし部会 【精神障がい地域包括ケアシステムWG】				
令和4年度 部会WG状況把握表				
活動理念	精神障がい者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしができる医療・障害福祉、介護、社会参加、住まい、地域の助け合い、教育が包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築を目指す。			
活動目標	<p>多職種で構成されるWGメンバーにより、日常生活圏域における課題を整理して、本会議に地域ケアシステム構築に向けての提言を行う。</p> <p>1. 昨年度、実施した伊賀圏域グループホーム入居者意識調査の結果から得た内容と関連付けたケースを抽出し個別事例を検討することで、地域移行に必要な対応や支援内容を具体的に考える。</p> <p>2. 個別事例の対応を検討することで、地域移行後の地域定着支援に必要な対応や内容を具体的に考える。</p> <p>3. 個別事例の対応を検討することで、対象者だけでなくケースを取り巻く事業所や支援者の対応、支援方法についても検討していく。</p>			
	<p style="text-align: center;">取り組み計画 (PLAN)</p> <p>【第1期四半期計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の・WG長・副部長の選任</li> <li>・本年度の活動計画について確認する。</li> </ul> <p>昨年度、抽出した7事例について検討を通して課題を整理する。 隔月ごとのWG会議で事例検討を行うが、その都度支援状況の変化あればWGメンバーで情報を共有する。</p> <p>【第2期四半期計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討</li> </ul> <p>【第3期四半期計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討</li> </ul> <p>【第4期四半期計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討</li> <li>・事例検討で、検討した課題や達成した支援方法を本会議に報告できるように整理する。</li> </ul>			
		実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)
第1 四半期	4月			
	5月			
	6月	6/14 第1回WG ・WG長、副WG長の選任 ・今年度活動計画の確認	・WG長・副WG長の選任ができた。 ・両市のモデルケース7例の経過を追いながら、多くの人に共通する課題を抽出することを確認。	計画的にWGを開催できるよう、年間の会議開催日を決定した。
第2 四半期	7月			
	8月	8/30 第2回WG ・モデルケースの状況及び経過について	・モデルケース7例をもとに意見交換を行った。賃貸業者側の意見を聞きたいとの意見あり。	次回会議以降、賃貸業者からの意見聴取の方法等について検討を行う。
	9月			
総評 上半期	達成率 100%		モデルケース7例を抽出し追いつきながら細かく意見交換を行い各々の課題を抽出することが出来た。	
第3 四半期	10月	10/25 第3回WG ・モデルケースの状況及び経過について ・先行研究「障がい者の部屋の借りづらさ」に関する賃貸業者調査について	・モデルケース7例をもとに意見交換を行った。グループホームから出るためのしくみづくり等について意見が出た。 ・先行研究の結果等を共有し、WGで実施する意見聴取の内容をイメージすることができた。	次回会議で、伊賀市の住居探しの事例報告を行い、賃貸業者に聞きたいことをまとめる。
	11月			
	12月	12/20 第4回WG ・モデルケースの状況及び経過について ・障がい者の住居探しに係る課題	・モデルケース7例をもとに意見交換を行った。 ・伊賀市の事例等から、アンケート調査の方向性等を確認した。	アンケート調査実施に向けて、内容や方法を具体化していくことが必要である。
第4 四半期	1月	1/24 第5回WG ・R4事業計画進捗状況について ・R5事業計画(案)について		
	2月	2/28 第6回WG(予定) ・モデルケースの状況及び経過について ・賃貸業者に対するアンケート調査について		
	3月			
総評 下半期	達成率 80%		事例検討を元に地域移行への課題の整理を行い、福祉サービスでの対応だけでなく賃貸業者へのアプローチの方法を検討することが出来た。	
総年 評度	達成率 90%		事例を元に賃貸業者へのアンケート調査実施に向け、内容や方法を具体化し次年度の活動に繋げることが出来た。	

就労部会 【雇用啓発 WG】				
令和4年度 部会WG状況把握表				
活動理念	就労ステージ（雇用の場・就労福祉サービス、地域活動参加の場等）の多様な環境を整え、積極的な社会参画ができる地域を構築していく			
活動目標	福祉から就労に向けた計画的推進と障害者の雇用促進に向けた啓発 ○雇用の場の開拓と啓発			
取り組み計画(PLAN)				
① 他機関主催イベントへの参画				
		実行実績(DO)	評価(CHECK)	改善(ACTION)
第1 四半期	4月			
	5月			
	6月	6/30 WG会議 今年度活動計画の確認 開催日、開催方法について確認	②、③の事業について、主に協議	
第2 四半期	7月			
	8月	8/17 WG会議 開催日程変更について共有 (日、時間帯を分けて分散)	②、③の事業について、主に協議	
	9月	9/15 WG会議 就職面接会へのWGメンバー参加可能日 確認		
総評 上半期	達成率 30%	面接会開催に向けた調整 企業説明会の予定確認	下半期の面接会開催に向けた調整・確認を行った。	
第3 四半期	10月	障がい者就職面接会(18社) 会場：ハローワーク伊賀2階会議室 開催：9月末～10月(6日間) ※昨年度に引き続き事前予約制で実施WG: 受付、誘導、除菌作業等	面接会参加者32人(採用決定者数8人) 地域別：伊賀市16人、名張市16人 障がい種別：身体12人、知的4人、精神16人	以前は集団面接会として実施していたが、新型コロナウイルスの影響により令和2年度より、感染症対策として集団面接会を縮小(分散型)して開催された。昨年より参加者は減りましたが(R3:39人)、採用決定者が8人であり、採用率は25%となり4人に1人が採用されるといった結果となりました。次年度も部会活動の一つとして主催者とともに、継続して取り組みを進めます。
	11月			
	12月			
第4 四半期	1月	1/19 WG会議 就職面接会実績報告(上段参照) 名張市就職面接会		
	2月	2/22 就職面接会 in 名張	参加希望者数：伊賀市14人、名張市44人、その他2人 障害種別：身体17人、知的9人、精神15人	
	3月			
総評 下半期	達成率 50%	面接会・企業説明会に協力	面接会において受付、誘導、除菌作業等を実施した。	
総年 評度	達成率 90%		伊賀公共職業安定所、三重労働局、名張市が主催する事業に、WG(共催)として協力することができた。	



就労部会 【雇用啓発 WG】			
令和4年度 部会WG状況把握表			
活動理念	就労ステージ（雇用の場・就労福祉サービス、地域活動参加の場等）の多様な環境を整え、積極的な社会参画ができる地域を構築していく		
活動目標	福祉から就労に向けた計画的推進と障害者の雇用促進に向けた啓発 ○雇用の場の開拓と啓発		
②	取り組み計画（PLAN）		
	企業訪問の実施（就労定着、雇用啓発の支援で実施）		
	実行実績（DO）	評価（CHECK）	改善（ACTION）
第1四半期	4月		
	5月		
	6月	6/30 WG会議 今年度活動計画の確認 訪問対象企業について協議	
第2四半期	7月		
	8月	8/17 WG会議 企業訪問（対象企業、聞き取り内容、訪問時期）の詳細検討	過去2年間訪問している企業を除き11社選定（3班体制で訪問）。 聞き取り内容は昨年を参考にする。
	9月		
総評 上半期	達成率 100%	企業訪問に向けた協議	下半期の訪問に向けて、対象企業、聞き取り内容、訪問時期の調整・確認を実施。
第3四半期	10月		
	11月	各班による企業訪問（11社実施）	企業訪問カードにより障がい者の職務内容、雇用ニーズ、雇用における課題等の聞き取り。
	12月		障がい者雇用助成制度の周知により、企業側の興味を引くことができた。 伊賀圏域内での各障害者就労支援機関により障害者雇用が促進されている状況を確認できた半面、業種によっては障害者雇用に関してハードルが高いと感じている企業があった。 来年度以降については法定雇用率が段階的に引き上げられることも考慮しながら、訪問先企業を選定していく必要がある。 また、企業への訪問に就労現場の見学を組み込むことで、職務の切り出し支援等も行い、より効果的な雇用の開拓、啓発に繋げる。
第4四半期	1月		
	2月	2/28 WG会議 企業訪問実施結果報告	訪問実施結果から、来年度に向けた実施内容の検討。訪問で得た情報の活用方法について検討。
	3月		
総評 下半期	達成率 70%	企業訪問 訪問結果共有、次年度に向けた協議	企業訪問により聞き取り、障がい者雇用助成制度の周知を行った。 企業の雇用実態、雇用ニーズや課題を聞き取ることができた。
総年評度	達成率 70%		法定雇用率が段階的に引き上げられること企業訪問の目的を再度協議し、次年度以降も継続して事業を実施する。

就労部会 【雇用啓発 WG】				
令和4年度 部会WG状況把握表				
活動理念	就労ステージ（雇用の場・就労福祉サービス、地域活動参加の場等）の多様な環境を整え、積極的な社会参画ができる地域を構築していく			
活動目標	福祉から就労に向けた計画的推進と障害者の雇用促進に向けた啓発 ○雇用の場の開拓と啓発			
③	取り組み計画（PLAN）			
	企業向け研修会の開催企画			
		実行実績（DO）	評価（CHECK）	改善（ACTION）
第1四半期	4月			
	5月			
	6月	6/30 WG会議 今年度活動計画の確認 企業向けアンケートの実施	ハローワーク開催の就職面接会の案内にアンケートを同封することとした。 開催時期は下半期とする。	
第2四半期	7月			
	8月	8/9 アンケート発送(179社へ発送)		
	9月	9/15 WG会議 WGで実施したアンケート及び、企業訪問等による課題を元に研修内容を検討。 アンケート回答(11社)	【研修内容】 精神・発達障害者しごとサポーター研修 障害者雇用に関する支援機関等の案内 障害者差別解消法の改正について	
総評 上半期	達成率 30%	研修内容・方法の協議 研修の実施	過去2年間開催できていなかったが、昨年度より検討していたアンケートを実施し、研修会の内容について決定することができた。	
第3四半期	10月	10/20 WG会議 開催日時等の詳細について協議。	次回WGまでに各支援機関の案内についての研修資料を作成する。	
	11月	11/21 WG会議	研修資料の確認を行う。	
	12月	企業への案内を行う。 12/19 WG会議 参加企業に対する資料の送付、当日のスケジュールについての確認	【対象企業】 令和4年度訪問企業11社 アンケート回答企業12社 →今年度の雇用啓発WG事業に協力いただいた企業に対し周知を行った。	
第4四半期	1月	1/26 企業向け研修会開催 会場：名張市防災センター 開催方法：会場及びリモート 【研修内容】 精神・発達障害者しごとサポーター研修 障害者雇用に関する支援機関等の案内 障害者差別解消法の改正について	【申込】8社11名  雇用啓発WGでのリモート研修会は初の試みであったが、滞りなく開催することができた。当日、1名の方が業務の都合上キャンセルされた。	雇用啓発WGでのリモートによる研修会は初の試みであったため、規模を縮小して研修会を実施した。研修内容については、一定評価をいただいた。リモート研修ということで気軽に参加できたという意見があった。また、法定雇用率引き上げにより、さらに障害者雇用に関する企業の意識が高まることが考えられることから、今後も継続して実施していきたい。
	2月			
	3月			
総評 下半期	達成率 90%	企業向け研修会の開催	上半期で決定した研修内容について、書類作成等、計画を立てて実施した。	
総年 評度	達成率 90%		研修の周知方法・集客に今後の課題がある。次年度以降も、企業に対して研修会等の取組を継続したい。	



就労部会 【 事業所連絡会WG 】				
令和4年度 部会WG 状況把握表				
活動理念	福祉と労働が連携し、障がいのある人の多様な働き方を考察し実現する。 障がいのある人が活躍できる就労活動の実現に努め、ひとりひとりが豊かな暮らしを送ることを支援する。			
活動目標	事業所間コミュニケーションを図り、目に見えるネットワークをつくる。 仕事の共同受注についての仕組みをつくる			
取り組み計画 (PLAN)				
①・④・⑤ ①目に見えるネットワーク構築のための組織づくり ④マルシェの開催 ⑤研修会の開催				
	実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)	
第1 四半期	4月			
	5月			
	6月	6/30WG 昨年度の反省を踏まえ、今年度の計画についての確認。担当分け。	メンバー交代もあったため、現在の状態を把握し、今年度の計画案を立てる。	昨年度の反省点を踏まえ、利用者に還元できるようにする。
第2 四半期	7月			
	8月	8/17WG 今年度の事業所訪問について、コロナの影響もあり時期や訪問については要検討となった。また訪問する際には同内容の事業所への訪問については配慮が必要である。(技術を取られると思う為)	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度の事業所訪問については、見送ることとなった。	次年度では、優先的に取り組んでいく。
	9月	9/27WG マルシェと研修について詳細を決めていく。	マルシェについて伊賀・名張両市で開催。方針については各市で決定。 研修について、内容や周知の仕方を検討。	昨年事業所訪問をした際に、マルシェや研修について知らなかったと言われたことがあるため、周知を徹底し多くの人を知ってもらおう。
総 上 半 期 評 価	達成率 20%	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度の事業所訪問については、見送ることとなった。		
第3 四半期	10月	10/20研修グループ打ち合わせ 第1回研修会(事例検討)のテーマ、日程等の詳細について協議。	就労部会ならではのテーマで決定。	他の部会との連携について案が出ていたが、今回は見送った。今後の検討課題としていく。
	11月	11/4WG 伊賀マルシェの詳細について。研修についてグループから説明。	伊賀マルシェが月末の為詳細について説明。研修グループから決定事項について説明。	伊賀マルシェが2日に渡るため、当日の内容について説明を行いメンバー間でも周知する。研修グループから詳細について説明を行い、メンバー間で周知する。
		11/15 伊賀市マルシェ打ち合わせ	WGマルシェ担当者でマルシェ参加事業所が集まり、当日の流れや注意事項等について共有した。	
11/18 研修グループ打ち合わせ		研修当日の進行等について協議した。		
12月	11/29、30 伊賀市マルシェ開催	11事業所(伊賀・名張)が参加。 障害者週間のイベントとして開催。 マルシェ売上:369,360円 販売者数:500人以上 2日に分けて開催したことで集客状況など異なりが生じた。	集客に均等性を保つため、開催を1日とした方が良いのではといった意見があったことから、協議の必要がある。 ※開催場所(スペース)の確保も必要。	
	12/5WG、研修グループ打ち合わせ	研修のシミュレーションをオンラインで行い、当日滞りなく研修を実施することができた。		
	12/7 第1回研修会(事例検討会) オンラインで開催 12/23 研修グループ反省会	14団体32名が参加。職歴や事業所も様々なメンバーでグループを組み意見交換ができたところがよかった。 研修会の反省会を行う	利用者や支援者に還元できるように反省会を行う。	
第4 四半期	1月	1/12 研修グループ打ち合わせ 第2回研修会の内容について協議 1/19WG、就労部会 今年度の事業実績および次年度の事業計画について協議		
	2月	販売会(マルシェ)の実施 …名張市2/5	7事業所(伊賀・名張)が参加。 上映会のイベントにあわせて開催。 マルシェ売上:84,050円 販売者数:228人	日曜日のため利用者が参加できないとのこと で不参加の事業所も多い。今後は開催日程を検討する必要がある。
	3月	オンライン研修会を実施予定(3月中旬) 虐待に関して 講師:伊賀市地域包括支援センター職員		
総 下 半 期 評 価	達成率 70%	研修会、マルシェともに準備を入念に行い、滞りなく終えることができた。WGの新たな試みとして事例検討会を実施できたことがよかった。		
総 年 評 価	達成率 80%	研修会については、次年度は年内に2回実施できるよう早めに準備を始める。 マルシェについては継続する。		

就労部会 【 事業所連絡会WG 】				
令和4年度 部会WG状況把握表				
活動理念	福祉と労働が連携し、障がいのある人の多様な働き方を考察し実現する。 障がいのある人が活躍できる就労活動の実現に努め、ひとりひとりが豊かな暮らしを送ることを支援する。			
活動目標	事業所間コミュニケーションを図り、ネットワークを構築する。 仕事の共同受注についての仕組みを作る。就労継続支援B型事業所の在り方を検討する。			
取り組み計画 (PLAN)				
②・③ ②事業所連絡会の開催について ③連絡会の活性化				
		実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)
第1四半期	4月			
	5月			
	6月	6/30WG 昨年度の反省を踏まえ、今年度の計画についての確認。担当分け。	メンバー交代もあったため、現在の状態を把握し、今年度の計画案を立てる。	昨年度の反省点を踏まえ、利用者に還元できるようにする。
第2四半期	7月			
	8月	8/17WG 今年度の事業所訪問について、コロナの影響もあり時期や訪問については要検討となった。	連絡会の活性化に向けた事業の一つとして事業所訪問を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度は見送ることとなった。	次年度では、優先的に取り組んでいく。また、訪問する際には同内容の事業所への訪問については配慮が必要である。(技術を取られると思う為)
	9月			
上半期総評	達成率	20%	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度の事業所訪問については、見送ることとなった。	
第3四半期	10月			
	11月			
	12月			
第4四半期	1月			
	2月			
	3月			
下半期総評	達成率	20%	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度の事業所訪問については、見送ることとなった。	
総年評度	達成率	20%		

就労部会 【 事業所連絡会WG 】				
令和4年度 部会WG状況把握表				
活動理念	福祉と労働が連携し、障がいのある人の多様な働き方を考察し実現する。 障がいのある人が活躍できる就労活動の実現に努め、ひとりひとりが豊かな暮らしを送ることを支援する。			
活動目標	事業所間コミュニケーションを図り、ネットワークを構築する。 仕事の共同受注についての仕組みを作る。就労継続支援B型事業所の在り方を検討する。			
取り組み計画 (PLAN)				
⑥・⑦ ⑥事業所MLの運営について ⑦事業所ガイドブックについて				
		実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)
第1 四半期	4月	↓	⑦ガイドブック完成にむけて検討・作業(昨年度からの継続)	
	5月			
	6月			
第2 四半期	7月	⑥MLに伊賀市内新規就労系障害福祉サービス事業所を追加	⑥MLに追加したことにより、新規事業所にも事業所連絡会の活動に参画してもらうことができた。	⑥今後も、新規事業所は随時MLに追加し、情報共有の漏れがないようにしていく必要がある。
	8月			
	9月			
上半期 総評	達成率			
	30%			
第3 四半期	10月			
	11月	⑥MLにて、「伊賀就労マルシェ」開催を周知	⑥MLを活用し、マルシェの活動を周知することができた。	⑥今後もさらに積極的にMLを活用していく。
	12月			
第4 四半期	1月	⑥⑦MLにて、ガイドブックの入力用フォーマットを事業所へ送付(予定)		⑦ガイドブックの完成に向けて、今後早急に動いていく必要がある。
	2月	⑦事業所からの入力済フォーマットを集約・編集(予定)		
	3月			
下半期 総評	達成率		WGの事業に関して、随時MLを活用した。MLを活用した仕事案内ができた。ガイドブックについては年度内に完成までは至らなかった。	
	60%			
総 年度 評 定	達成率		今後も、WGの事業に関することや仕事案内など、情報共有のツールとしてMLを積極的に活用していく。ガイドブック作成については、次年度早々に更新予定。	
	60%			